



総合学科の創造性 地域の力に  
に し め  
**新志芽通信**

No.012

令和7年9月2日  
秋田県立西目高等学校

## バスケットボール部特集

「同好会」から「部」に昇格して2年目となりました。今年度は、菅原大雅先生が監督に就き、「公式戦1勝」を目標としてチーム一丸となって頑張っています。昨年5回だった練習試合も、9月まで既に14回行っています。今回は、頑張っているバスケ部の「今」と「これまでの歩み」を紹介する特集です。



### 3年生



No. 4 三浦朔夜



No. 5 志村一咲

- ①声とパスで流れをもってくる
- ②パス

- ①シュートを丁寧にうつ
- ②ゴール下

### 2年生



マネ 田中風羽



マネ 飯尾明音

- ①1勝できるようにチームをサポート
- ②ボール扱いとパス出し

- ①選手の特徴を覚えて声かけをする
- ②声を出す

#### 監督 菅原大雅

4月から監督を務めています。女子への指導をしたことがなく、はじめは戸惑いましたが、選手としての経験を元に、練習メニューをいろいろと考えながら頑張っています。監督就任当初に比べ、みんなが「バスケットボール」に対して、より真摯に向き合ってきていると感じています。練習試合では、勝つことも増えました。部員たちの「勝ちたい」という気持ちを大切にし、公式戦で勝利させてあげたいと強く思っています。引き続き、女子バスケットボール部への応援をよろしくお願いします。

#### 前主将 三浦朔夜

同好会から部へ昇格して約1年半が経ちました。部として活動が始まってからは、より一層責任をもって日々の練習や試合、公式戦に取り組んでいます。私たち3年生は10月に行われるウィンターカップ予選で引退しますが、1・2年生にはバスケができる環境と、関わってくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに頑張りたいです。

#### 主将 斉藤朱音

1・2年生の選手は8名で、チーム内で試合形式の練習ができないため、練習試合をたくさん行っています。試合をすることでチームの課題が分かるので、それをクリアする練習にも身が入っています。キャプテンとしてチームの雰囲気上げられるように声かけをしたり、自分の技術を高めるよう努力したりしつつ、チームの勝利へ向かう意識をまとめ、「公式戦1勝」という目標を全員で達成できるように頑張っていきたいです。

※ ここで使用した写真は全て遠藤さおり様にご提供いただきました。



No. 6 鈴木優来

- ①1試合で20点をとる
- ②スリーポイントシュート



No. 7 斉藤朱音

- ①率先して声を出す
- ②スリーポイントシュート



No. 8 鈴木美優

- ①ルーズボールを全部取りに行く
- ②スリーポイントシュート



No. 9 佐々木菜奈

- ①周りに声かけをしながらプレーする
- ②リバウンド

- ①目標・頑張りたいこと
- ②得意なプレー



No. 12 佐藤希美

- ①ディフェンスで相手を身体でとめる
- ②ミドルシュート



No. 13 山本心優

- ①状況を判断して的確な指示を出す
- ②ディフェンスアブレッシャーをかける



No. 14 石川あかり

- ①押し負けない体幹の力をつける
- ②リバウンドをとる



No. 15 遠藤海葵

- ①積極的にを押し1試合20点をとる
- ②ドライブ



No. 16 高橋琉花

- ①一つ一つのプレーを大事にする
- ②ディフェンスアブレッシャーをかける

# 生徒総会

【2021年 新志芽通信5月号 より】

5月11日



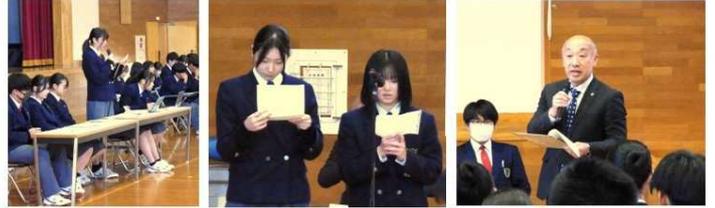
今年度の生徒総会でバスケットボール同好会の設立の申請が出され、総会で承認後、学校長から承認をいただき、5月19日に同好会として設立しました。



バスケットボール同好会発足!

【2024年 新志芽通信No.4 より】

生徒総会 [5月14日(水)]



答弁の様子

バスケット同好会の決意表明

関谷校長先生

6校時に今年度の生徒総会が行われました。昨年度の生徒会事業、会計決算の報告、今年度の生徒会活動方針、事業計画、会計予算について話し合われました。各クラスで討議されまとめられた質問事項に対して、担当部署から返答がなされ、今年度、よりよい学校生活になる方向性を確認することができました。また、

設立から3年間継続して活動してきたバスケットボール同好会について、「部」への昇格を、過半数の賛成をもって議決されました。そして、関谷校長先生が「部」への昇格を承認し、今後、正式に「西目高校バスケットボール部」として活動していくことになりました。

【2022年 新志芽通信5月号 より】

## 全県総体壮行会



※ 同好会が発足して1年後、初めての公式戦出場



5月11日、全県総体壮行会が開催されました。秋田市を主会場に先行開催競技は5月28日より、その他競技は6月4日より開催されます。各部の決意表明の後、生徒会長と応援委員長の激励がありました。

## バスケットボール同好会、「部」への昇格

同好会から部に昇格していただき、とても嬉しく思っています。その反面、気持ちを入れ替えて新しいスタートを切らなければいけないことに緊張感を持っています。同好会の時のモットーであった「楽しくバスケットボールをする」ということを継続しつつ、より真剣に本格的に取り組んでいきたいです。私たち3年生にとっては最後の大会となるのが6月の全県総体です。チーム全員で頑張っており、皆で笑顔で終われるよう、練習に取り組んでいきます。後輩のみんなには、これまでに以上に楽しんでバスケットを続け、勝利を目指して頑張っていって欲しいです。



主将 小野香桜 (写真左)、副主将 山本妃依 (写真右)

【2024年 新志芽通信No.15 より】

## バスケットボール部横断幕贈呈式

【9月30日(月)】



西目高校バスケットボール部応援団を代表してご挨拶させていただきます。佐々木智浩(ささきともひろ)と申します。現在36歳、今年1月に東京から横手市に戻りまして、横手駅の近くでゲストハウスを経営しています。今後、秋田を盛り上げる事業をどんどん展開していく予定です。今バスケット顧問をしている佐々木充宏先生から、18年ほど前、横手高校でハンドボールを教えていただきました。

充宏先生が、バスケットボール同好会ができたところから顧問をしており、今年度4年目にして部に昇格したという話を聞きました。私は、充宏先生が私たちに部の指導を一生懸命してくれてたおかげで今があると思っています。その恩を今頑張っている生徒のみなさんに返そうと考え、横断幕作成が決まりました。



横断幕の「一点突破」には、「あれこれと中途半端に手を出すよりも、1つのことに集中して力を注ぎ、活路を切り開け」という意味が込められています。この「一点突破」という言葉は、スポーツに限らず、西目高校のみなさんがこれから生きていく上でとてもヒントとなる言葉だと思います。

今後みなさんに訪れる様々な状況の中で、自分もしくはチームとして、「今何に集中すべきなのか」「自分の役割は何なのか」「何が課題なのか」ということに対して、真摯に向き合って考えて欲しいと思います。例えば、バスケットボールで言うと、試合で「確実にシュートを決めること」なのが、練習中なら「どんな

スキルを磨くべきなのか」を考えるということです。社会に出て、会社だったり、もしくは起業してチームを組んだりしたときなら、今自分が集中するのは「営業」なのか、それとも「商品開発」なのかなどです。そういった目標達成のために自分の役割、すべきことを明確にし、「まずはこれに集中する!」と考える事。「一点突破」という言葉はそんなことを教えてくれているんだと思います。

みなさんにはたくさん魅力があります。若さ、体力、創造力、行動力などです。そんなみなさんに、これから周りほとんど頼ってきます。期待をします。力を借りに来ます。秋田県とかその中の田利本狂地域など、地元の地域だと尚更です。みなさんが「あれもやらなきゃ!」「これもやらなきゃ!」とやるべきことが多すぎてどうしてよいか分からなくなりそうになったら、『一点突破』、まずは何に集中すべきなのかを考えましょう。

集中すべきことを見つけ、それに熟意をもってとことん取り組んでいる人には、必ず応援してくれる人が出てきます。手伝いたい、仲間になりたいと言ってくれる人も出てきます。そんな人たちとの繋がりが大事になら、みなさんそれぞれがやりたいこと、目標、夢に向かって頑張っていってください。

私は西目高校のみなさん全員を応援しています。バスケットボール部のみなさんは、ぜひ「一点突破」の心意気で、まずは「公式戦1勝」を達成できるように頑張ってください。



## メディアで紹介されました

2022年1月20日

ABS秋田放送「news every.」

『かつて「自然消滅」西目高校バスケ同好会が復活!』

2023年6月12日

ABS秋田放送「news every.」

『立ち上げた3年生最後の大会 西目バスケ同好会の高校総体!』

2024年5月30日

ABS秋田放送「news every.」

『いざ初陣! 同好会から部へ昇格「西目高校 女子バスケ部」プレーを楽しんで大舞台に挑む』

2024年9月30日

ABS秋田放送「news every.」

『「昇格」後初勝利へ心強いプレゼント 西目高校女子バスケ部に初勝利と活躍を願う横断幕』

2024年10月15日 秋田魁新報

『「一点突破」志継く応援幕贈呈 新設・西目高女子バスケ部』

2025年2月18日

チムチア #160

